

# ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 <b>アキュライン・ツアープレミアムインテル</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.523</b>	△RG <b>0.040</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：アキュライン・ツアープレミアムインテル**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ

**比較対照ボール：アキュライン・ツアープレミアムVI**

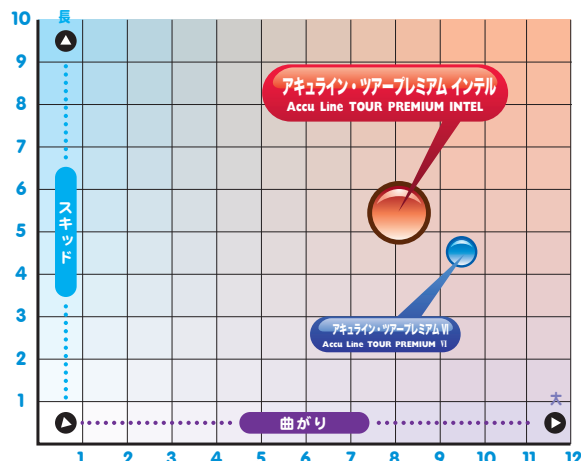
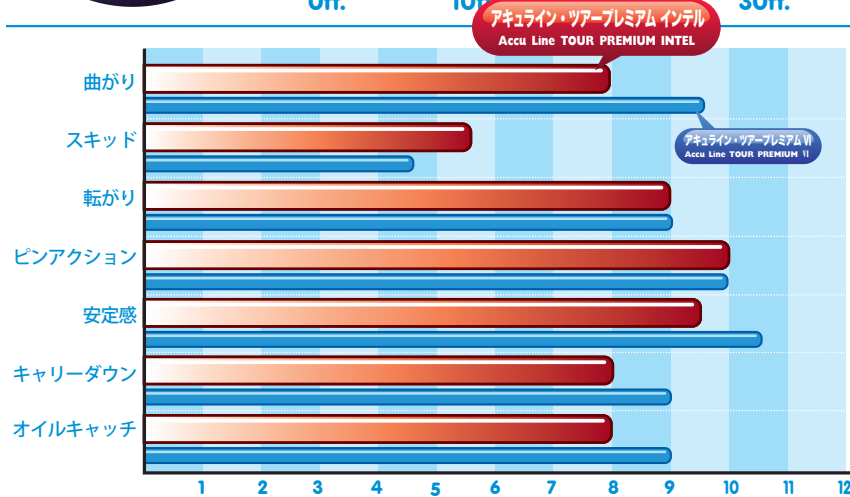
フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil	Smooth	Early Roll
Light to Medium	Smooth to Arc	Early to Med
Medium Oil	Arc	Med-Lane
Medium to Heavy	Arc to Sharp	Med to Late
Heavy Oil	Sharp Angle	Late Roll

## ボールの評価

ABSの主力であり、発売に至るまでには吟味に吟味を重ねて多くのパフォーマンステストをクリアしなければならない国産の代表作と言えばナノデスシリーズですが、その中で最も人気が高く、発売するたびに注目を集めるのがツアープレミアムシリーズでしょう。皆さんご存知の通り、このシリーズはコアをPremiumコアに限定し、カバーストックを調整することでパフォーマンスを変化させています。Premiumコアの特性を活かしながらオイルに対しての強さを見出し、国産カバーストックならではの独特なキャッチとバックエンドモーションを十二分に体感していただくために、今までのツアープレミアムシリーズはある意味、ミディアムコンディションから上の、オイルがやや多い時用のスペックが多かったと思います。

今回発売するツアープレミアムインテルは、今までのツアープレミアムの領域をカバーするのはもちろんですが、中盤から後半にかけてもツアープレミアムシリーズを使っていただけのようにPremiumコアの数値をあえてダウングレードさせ、物理的特性を奥にイメージできるよう調整を行ったモデルです。

私個人的にはツアープレミアムの安定したMidのキャッチが少なくなり、曲がりのイメージが奥に行くことで先で暴れる感じがしますが、かえってそれぐらいのほうが遅めのコンディションでは都合がよく、無理なくより後半のコンディションで使用できるイメージが付きやすいです。かと言って曲がりが足りないイメージもありませんし、オイルが削れてきた時に中目へのラインアジャストを必要とした場合、今までのツアープレミアムでは寄らなければならないけど、ツアープレミアムインテルではまだそのラインを粘れる感じはしました。

コアの調整でMidの曲がりを越えてくれたことで、カバーのキャッチを殺さずに直進力を得られた部分は非常に大きいでしょう。

## 特記事項

**ツアープレミアムシリーズに後半戦も使えるモデルが登場です。今までのツアープレミアムと少し曲がりのイメージが異なる分、また違ったツアープレミアムの魅力を味わえるボールです。**